

## 特集◆◆◆◆「海技の伝承」 救命筏の基礎知識

### ◆ 船員の命を守る ◆⑧ 生き抜くために必要な「救命いかだ」の知識

洋上を航行する船舶には海難に遭遇した場合に備え、命を守るための救命艇や「救命いかだ」などが設備されており、万が一の不幸な事態を避けるため、救命いかだに関する知識は必要不可欠である

#### 「生存指導書」でのポイント

#### 「生き抜くために望みを捨てるな。救助は必ずやってくる。」

必ず救助される機会は得られる。この希望を捨ててはならない。

#### 精神力

救命艇やゴムボートに落ち着き一応身の安全が確保されると孤独感・虚脱感・絶望感・退屈感などが襲ってくる。いろいろあれやこれやくよくよと考え、自分が世の中のあらゆるものから忘れ去られてしまったように感じがちのものである。そして、黙りこんでしまって全く元気を失ってしまう。それに、空腹や渇きが増えると意志力が減退し、この状態はそのまま放置すると1人から2人と伝染し、ついには全員が救いようのない恐怖のどん底に落ちこんでしまう。

遠くの空を航空機がかすめて飛び去り、水平線を船が過ぎ去るのを見て急にがっくりと気を落とし、明日への希望を失いがちである。昔は十数日も救助されないというようなことがあったが、現在は通信網が、そして救助機関が発達しており救助の手がさしのべられるのは、間違いないと確信してよいのである。私たちは外的な難条件ばかりではなく、内的な精神面における危機も克服しなければならない。

この危機を克服して明日の救助を期待するための力は、私たちの中にあるもの、闘志であり、ユーモアであり、そしてまた艇員の団結以外に何も無い。

孤独感、絶望感といったものとたたかうことは難しいことだ。しかし、武器のないたたかいではない。誰もが心の中にすばらしい武器を持っている。お互いに励まし合い、漠然としたそういったものをまぎらわそう。話し合うのもよい、手品を行なうのもよい、合唱するのもよい、魚釣りを行なうのもよい、体を動かすのもよい、考えつくことは何でもやってみることが一番役立つものなのである。

くよくよしてもどうなるものではない。あせらず、のんびりと、救助されるという確信を失うことなく、また、自ら助かろうとする努力を放棄してはならない。重ねて言う。強固な精神力と団結力を維持することこそが今日そしてまた明日、最も必要なことなのだ。

「海員だより」